

人高BYH構想

～地域と連携した教科横断的な探究活動による、未来の復興を担う人材の育成～

1 事業の背景と主題の設定理由

人吉高校では地域の魅力を再確認することに始まり、地域や社会の様々な課題を捉えて解決法を探る「BYHプログラム」を総合的な探究の時間に実施している。「BYH」とは、“Broaden Your Horizons”の頭文字を取ったもので、探究活動を通じて、「境界線を広げ、自分の世界を広げていく」という意味を持たせている。

人吉球磨地域は令和2年7月の豪雨災害からの復興途上であるが、地域の将来を担うのはまさに現在の高校在学中の生徒たちである。今回の事業指定でさらにこのプログラムの深化を図り、改めて地域を知り、自分事として地域の課題を捉えて探究し、地域のこれからを考える人材の育成を目的としている。

2 事業概要

BYHプログラム（総探）のカリキュラム開発と実践、検証を行う。ICT環境を活用して、教科を超えた探究活動を進める。人吉市をはじめ地元自治体や観光、歴史・文化、地域産業等の関連団体と連携して、地域課題解決のための課題発見および解決法を探るための探究活動を多面的に展開する。

今年度は、「BYHプログラム」と「クロスカリキュラム」の2つの取組を進め、総合的な探究の時間のカリキュラム開発を軸に本事業を行った。

3 具体的活動紹介

BYHプログラム (地域課題解決に向けた探究活動)

地域理解プログラム



地元企業、青年会議所、育友会会長、市役所職員の方にご講話いただき、地域の魅力や課題に気づく機会とした。



フィールドワーク



熊本地震の被災地や人吉球磨の自然や文化財を直接自身の目で見て、歩いて、ふるさとの現状について理解を深めた。



課題発見プログラム



これまで学び考えたことをもとに、地域の課題解決に向けたアイディアを発表する。

地域連携事業



市役所や青年会議所の方と意見を交わしながら、被災により直面している地域課題の解決策を提案した。

地域×高校×大学 連携



熊本県立大学と共同研究を行い、地域コミュニティの活性化のための提案を市役所で行った。

クロスカリキュラム (教科等横断的な学びの実現)



- ※ 熊本県立大学 病院事件の単行本から
- ◎【安楽死】の4要件
- 1 耐え難い肉体的苦痛
 - 2 死が避けられず、死期が迫っている
 - 3 肉体的苦痛を除去・緩和する他の方法がない
 - 4 患者の明らかな意思表示

英語×生物、国語×公民など、ゲストティーチャー形式でのクロスカリキュラムを実施し、学習を深めた。